

平成16年度第9回尾張旭市交通問題懇話会

1 開催日時

平成17年1月26日（水）

開会 午前9時30分

閉会 午前11時50分

2 開催場所

尾張旭市役所 南庁舎2階 201会議室

3 出席者名

会長：加藤哲男 副会長：黒田鉦司

構成員：大澤一夫、荻原善夫、奥野昌明、加藤桃代、荻谷勝、近藤重男、
櫻井栄二、田中悦子、田中さゆり、寺田千珠子、戸松秀男、
林喜一、日比野正夫

顧問：伊豆原浩二

事務局：加藤和人、秋田誠、長江均、森重憲、喜多野純子、大和弘明

4 議題等

- (1) 第8回交通問題懇話会会議概要の確認について
- (2) 試験運行の利用状況等について
- (3) 利用者のアンケートについて
- (4) その他

5 会議の要旨

(1) 第8回交通問題懇話会会議概要の確認について

(事務局)

概要について異論等がなければホームページに掲載していきたいがどうか。

(会長)

異議はないようなので、これで掲載をしていただきたい。

(2) 試験運行の利用状況等について

(事務局)

12月、1月の延べ利用者数は5,228人、1日当たりの平均利用者数は134人、1台当たりの平均利用者数は3.7人となっている。

内訳として西ルートが2,242人、東ルートが2,000人、南ルートが986人となっている。

午前、午後の利用状況では、12月が午前中1,730人、午後1,361人であり、1月は午前中1,204人、午後933人となっており、午前中の方が多い傾向となっている。

のりば別では、いずれのルートも市役所の利用者数が多い。それ以外では、西ルートが「旭労災病院」、東ルートが「三郷南」、南ルートが「南栄町旭ヶ丘」の利用者が多い。

寄せられている試験運行に関する意見としては、利用者から「うれしい」、「ありがたい」という意見がある。

のりばの関係（もっと分かりやすいものにして欲しい等）、車両の関係（危険回避の表示をして欲しい等）、運転手の関係（親切な対応である等）、運行時間・ルート延長の関係（早朝、夜も運行して欲しい等）等についての意見も寄せられている。

（構成員）

寄せられた意見にもあるが、労災病院の入口から玄関までの坂は結構きついが、診察終了後、薬を玄関から坂を下った入口付近にある薬局まで買いに行かなければならないので、運用上、再度玄関まで行かずに入口で乗車ができるのなら利用者にとって非常に良い。

（事務局）

すでに現場を見に行き、安全上、止まりにくいと思われるが、使い勝手の良いようにしていきたい。ただ、すぐに対応できるというわけでもないで少し時間をいただきたい。

（構成員）

ジャンボタクシーを導入する際、踏切などで停まったら、乗客を降ろしてもいいのではという意見があったが、実際に弾力的にできないか。9人乗車しているところへは乗れないためタクシーを呼ぶと10～15分かかるが、そんなには待ってられないので少し先で降りるだけならもう一人だけ乗せられないか。また、尾張旭駅まで回せないか。そんなことを利用者のために弾力的にできないのか。

（顧問）

そういうことは道路交通法を違反することになってしまう。運用上やれるかと言われても市ではできないとしか答えられない。旭労災病院の場合は臨時バス停などのやり方はあると思う。（一つのバス停の中にもう一つ臨時的なものということであれば大丈夫だと思う。）ただし法律を曲解して行うのは難しい。

(構成員)

高浜市の場合は乗る場所は決まっているが、降りる場合はどこで降りても構わないようになっている。

(顧問)

フリー乗降になるが、ルールを守り、条件を付けた運行になります。

(構成員)

労災病院西の利用者数が非常に少ないので、この停留所をもっと東（労災病院の調剤薬局の方）へ移動できればよいのではないか。

(構成員)

西ルートは利用者がだんだん増えている。それに比べて南ルートが非常に少ないのは検討の余地がある。西ルートで、できれば霞ヶ丘と労災病院西の間にもう一つ停留所があればと思う。

(会長)

道路が狭いから停留所が設置できない場合は、地区の人が空き地を提供するという形になればできるかもしれない。つまり、地域の協力があれば解決できるかもしれない。

(構成員)

今回の開催通知文に「ジャンボタクシーを利用してお越しく下さい」と書いてあったが、こういう PR をどんどん行って欲しい。市役所だけでなく、渋川福祉センターや他の施設で実施される会合でもジャンボタクシーを PR して欲しい。

(会長)

そういう PR をしたことによる効果測定ができるとよい。例えば 20 人の会合で何人の人がジャンボタクシーに乗ってきたかというデータがとれるのであれば、それをお知らせ願えればと思う。

(事務局)

今回の開催通知にも記載させていただいたが、庁内的には以前にも利用促進の文書を出した。まだ十分に定着をしていない向きもあるので、再度内部で周知を図っていききたい。

(構成員)

次の会合において利用促進を依頼する文書を見せたい。

(構成員)

開始時間は記載してあるが、終わる時間も記載してもらえるとありがたい。

(構成員)

会合をする場合で、確実に乗るという訳ではないが、9人以上参加する場合は事前に連絡すればタクシーが予め付いてきてくれるようにしてほしい。

(事務局)

事前に乗車人数が確定していれば、そういったこともできます。

(構成員)

南ルート利用者が少ない点について、老人会にてジャンボタクシーに乗って図書館や保健福祉センターへ行こうと話をさせてはいただいているが、南の地区は名鉄や市バスも通っているので利用者数が低いことは申し訳ないと思う。

(会長)

人口は南が多いが、(昨年度の調査結果から)行動パターンとして南から北へは来ていない(名東区へ目が行っているため)。これからこのジャンボタクシーで北へ来てくれる人が増えればいいなという思いは持っている。

(構成員)

「懇話会のメンバーは特に熱心なので、ジャンボタクシーの時間を考えて会合をセットしたという実績を出さなくてはいけない」と各課にはっぱをかけてほしい。

(事務局)

幹部会でもそうした話をしていく予定である。

(構成員)

利用客の年齢層はどうなっているのか。

(会長)

それは今後実施する利用者アンケートの結果で分かる。

(事務局)

ドライバーの話によると、お年寄りの利用が圧倒的に多い。

(構成員)

今の乗車人員で走行時間に余裕はあるのか。余裕があればルート延長や、停留所を2，3増設できるのではないか。

(事務局)

南ルートについては市役所に到着する時間が早いので、他のルートに比べれば余裕がある。だが、最初は30分走行が望ましいというのが懇話会の意見であったため、その辺も考慮する必要がある。

(構成員)

東ルートは病院がなく、労災病院へ行こうとすると乗り継ぎしなければならない。実際には可知整形外科やスギヤマへ行きたいという声がある。ここまでルートを伸ばせれば利用者も増えるのではないか。

(構成員)

運転手に聞いたところかなり時間に余裕があると言っていた。

(顧問)

乗合バスというのは余裕を持っていなければならない。ギリギリの時間設定で運行していては破綻してしまう。

(構成員)

西ルートの時間は4分ぐらい短縮できる。また、時間調整をして待機している場所が狭い路地とかなので、駅や広いところで待機するため、ダイヤの変更をしてみてはどうか。

(会長)

周知してあることなので、試験運行とはいえ時間を頻繁に変更するのはよろしくない。

(構成員)

愛知医大へ行きたいという人が多い。愛知医大のバスがバローに寄ってくれるようにしてもらえるとありがたい。また、店内でジャンボタクシー出発の5分前になったらアナウンスを流してもらえると乗り遅れることはない。

(構成員)

愛知医大まで行くと時間がかかるので、国道３６３号の南側に愛知医大のバス停があるので、そこをジャンボタクシーが通るようにすると便が良くなる。

(会長)

愛知医大のバスをどうこうするというのはちょっと難しいかもしれない。

(事務局)

愛知医大でどれくらい渋滞が起きるのかを調査している段階である。

(構成員)

会合を行う時間をジャンボタクシーの運行時刻に合わせるということだが、図書館の駐車場が中央公民館の行事で満車になっていることが多いので、中央公民館にもう少しジャンボタクシーに合せて行事を開催してもらようにし、考慮してもらえると良いのではないか。

(構成員)

渋川福祉センターの館長にも同様にお願いしているが、少しずつジャンボタクシーを利用する人が増えてきたようである。

(構成員)

我々がいただく懇話会謝礼の一部をジャンボタクシーのチケットにしてはどうか。もらった後は誰が利用してもよいのだから。

(構成員)

運転手が車内でのりば案内をしていないと思うが、その辺の指導は行っているのか。(東ルートは案内しているが。)

(会長)

乗客が２，３人であれば、乗ったときに降車する停留所名を聞いておけばアナウンスする必要はないが。

(事務局)

指導は常に行っているが、再度徹底するように指導する。

(構成員)

利用客も悪いとは思いますが、話をしていると声が小さくて聞きづらい。運転手

も気の毒なので、テープを流せばよいのではないか。

(会長)

運転手によっては小さい声の方もいるかもしれないが、指示を徹底するようにしてほしい。

(3) 利用者のアンケートについて

(事務局)

今年度は、利用者アンケートとOD調査を実施し、運行事業者による実証データと共に利用実態を把握していく。内容については、伊豆原顧問、加藤会長とも相談させてもらい、前回提示のものを修正させてもらった。

(構成員)

利用目的で「市役所での会合」というのを入れた方がよい。利用理由の「飲酒のため」は必要ないのではないか。(昼間からお酒は飲まない。)

(構成員)

回収期限を入れた方がよい。OD調査については今まで懇話会で何も情報提供されておらず、急に出てきた話なので、事前に一言あってもよかったのではないか。

(事務局)

「市役所の会合」は入れるようにするが、「飲酒のため」はこのまま残してはどうか。回収期限については明記するようにする。

(会長)

「飲酒のため」は結果として回答者数が0でも構わないから、残しても良いのではないか。

(構成員)

実際に昼間に2回ほどお酒を飲む機会があり、利用させていただいたことがある。

(会長)

「今までの利用回数」とあるが、何の利用回数か分からないので、新公共交通の利用と分かるようにしなければならない。

(構成員)

利用者からはポジティブな意見が出てくると思うが、それ以外の人の意見はどうするのか。

(会長)

大学と市で協力して実施することを考えている。

(顧問)

役所がやるのか大学がやるのかで結果にズレが出ることもある。市なら文句も言うが、大学に言ってもしょうがないということでズレが出てくることもあるため、その辺は詰めなければならない。

(会長)

調査をすることによって、利用しない人に情報提供できるというメリットもある。

(構成員)

対象はどれくらいなのか。

(会長)

最低でも1,000は配りたい。以前の調査の時には3,000配って3割ぐらいしか返信がなかった。

(構成員)

公共交通のこれからの中長期的な位置付けを考えなければならないので、もっと対象を多くしてほしい。

(顧問)

統計的に言えば、ある程度抽出すれば、その結果は全体の結果とほぼ同じということになる。内容も詰めなければならないが、何を聞くかによって対象数は決まってくる。

(構成員)

スーパーに協力依頼しようという意見があったが、動きがあればその状況を教えてもらえないか。

(顧問)

行政で動く場合、お金の管理（協賛金などの収入の扱い）が難しい面もある。

(事務局)

年末に医師会にチラシ掲出の依頼を行った。スーパーについては8店舗について声をかけ、停留所、時刻表、車体表示の協賛の是非を聞いている最中である。スーパー利用者に対して店頭でのぼりでのキャンペーン実施についても可能かどうかの意見を聞いている。

(構成員)

行政の立場でやりにくいこともある。懇話会としてやってもいいという意見も出ているので、その仕分けをしてもらいたい。行政と懇話会とが連携を持ってやっていきたい。そのためにも情報を提供してもらいたいと思う。

(4) その他

(事務局)

今回の懇話会は3月22日（火）午前9時30分から講堂1にて開催する。内容は今回提示以降の実証データとアンケート状況などを示し、皆さんからご意見をいただきたいと思う。

(構成員)

3月22日だと、住民アンケートの内容が情報提供されない。

(会長)

アンケートについてはこちらで作成させていただき、アンケート内容等の情報提供をさせていただくことで了解してもらいたい。

(構成員)

試験運行の見直しはいつ頃になるのか。予算につながっていくので早めに行なければならない。

(事務局)

およそ6ヶ月経過後になる。

(顧問)

全部一編にやるのではなく、徐々にやれることをやっていきましょう。